

Doc. No.: NR080723-2

2008年7月23日

## 太陽電池関連業界に本格参入 ～既存保有技術を応用展開し、新たな事業の構築へ～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区／社長：橋本 正博)はこのほど、太陽電池関連業界へ参入し、今月末に太陽電池パネル用膜厚測定装置を発売するなど、同業界に向けた取り組みを開始します。

太陽電池パネルは、石油などの化石燃料に代わる新たなエネルギー源として期待される太陽光発電を支える、最も重要な要素技術とされています。また、さまざまな技術的アプローチが可能のため、次世代ビジネスとして多彩な分野の開発企業からの注目度が非常に高く、既に多くの企業が参入を表明し、開発が進められています。

当社では、半導体・液晶パネル製造装置および印刷関連機器など、各分野で長年培ってきた独自の技術を幅広く応用できる太陽電池パネルに対し、以前から新たな事業展開の一翼を担う有力市場として注目しており、研究・開発を積極的に進めてきました。

そして今回、当社は太陽光発電の総合イベント「PVJapan 2008」への出展を機に、薄膜太陽電池パネルの膜厚値の測定や膜質の解析などが可能な「分光エリプソ式膜厚測定装置」の販売を本格的に開始。半導体向け測定技術を応用したこの装置を、太陽電池関連業界参入の第一弾と位置付け、当社の新事業確立の足掛かりとしていきます。さらに、パネル表面の成膜状態などを自動検査するムラ検査装置、微細な欠陥を高速検査する外観検査装置などの製品化を図っていくほか、インクジェットやノズル吐出を利用した塗布技術や、色素増感型太陽電池向けのめっき関連技術などの開発を推進。これらにより、太陽電池関連業界への本格参入を図り、同事業を当社の新しい柱として成長させていく予定です。

当社は、今回の太陽電池関連業界への参入により、今後急速に市場が拡大すると見込まれる同業界に不可欠となる、より低いコストで、より高い発電効率を持つパネルを実現する新たな製造プロセスの確立を目指します。そして、世界のエネルギー産業の変革と発展への、さらなる貢献を図っていきます。

\* 当社は、膜厚測定装置をはじめとする太陽電池パネル関連装置や、さまざまな要素技術を、7月30日(水)から8月1日(金)までの3日間、東京・有明「東京ビッグサイト」で開催される日本最大級の太陽光発電に関する総合イベント「PVJapan 2008」でご紹介します。



**分光エリプソ式膜厚測定装置「RE-8000」**

☆ この画像の印刷用データ(解像度300dpi)は、下記URLよりダウンロードできます。  
([www.screen.co.jp/press/nr-photo/](http://www.screen.co.jp/press/nr-photo/))